

時事作品

目

尾藤三柳選

【秀逸】

チルドレン去つて新たなチルドレン

記名 なし

政権を移動させるのも、国を委ねるのも「数」である。一時はチヤホヤされ、弊障の心ごとく棄てられた小泉チルドレンから小沢チルドレンへ、彼らの明日は？
イチローのあと一郎になるニユース

山口 早苗

民主党政権の幹事長に就任、良くも悪くも噂の中心となる豪腕一郎と、海の彼方でメジャー新記録9年連続二〇〇安打を達成したイチローのニユースが混交。
選挙区に丸太をさらす自民党

尾藤 一泉

元首相を名めた大物閣僚、派閥の領袖が、一人区では孫のような無名の新人に敗れて、丸太よろしくコロコロと枕を並べる。盛衰有必衰とはいつが、正視し耐えず。

二回目は集荷が五〇ほどに落ちた。多吟投句の最高はほぼ二〇だが、一人の句の中で時勢が動いているのが分かる。

作句時点の違いこそあれ、今回は、八月の第四五回衆議院議員総選挙と、その結果として予想を上回る大差での与・野党逆転が中心テーマになった。

「平成維新」などといわれるが、日本が今後どうなっていくのが、今の段階では判らない、ともあれ、一つの事実が、現象として提起された、これを川柳がどう捉えてゆくか、これからしばらくは時事川柳にとっても主戦場である。

【佳作】

日航に飛んだ話が飛んでくる 島崎 肇
マニフェストだけが浮いてるインド洋 山口早苗
刺客からまたやり直す選挙戦 同
五十五年地鳴りが走る現代史 同
ウイルスに先を越された運動会 同
本当に秋が淋しい永田町 同

落城の庭に染み入る秋の虫	山口早苗
三ヶ月お試し付きの鳩時計	同
早足で自公が沈む秋の暮	佐々木福太郎
開城の朝に風がやつて来る	同
官邸は秋の初めに大掃除	同
誤読より記憶に残る捨て台詞	同
脱け殻が散らばっている永田町	同
惨敗とひらがなで書く四代目	吉田国夫
水着だけ記憶に残る世界新	同
不満より不安を選ぶ有権者	齋木美佐緒
薄墨で書いた三党の合意書	鈴木寿子
剥製の鳩を机に幹事長	同
難解な六角形がたるんでる	同
二百を本当にして二階建て	同
教室と校長室の始業式	藤井蛭舟
百人と百人力の幹事長	同
八月に命日が来る自民党	同
職安へ永田町から列ができ	同
マニフェスト熊手を乗せて船出する	同

疑問符の影に怯えている主文	富田恭行
生き返る小選挙区の兜首	田口立吉
寄せ鍋が大味になる民主党	同
劇場が路頭に棄てるチルドレン	吉川一男
遼君を追うフラッシュの依怙臆履	同
二党首地雷の上でする握手	島崎穂花
フォーラムとどこか似ている裁判所	松永昇児
背水の陣をはみ出す夏の陣	同
撫子に弾き出された古狸	石井光夫
新進党にどこか似てきた民主党	同
大勝の肩に食い込む負の遺産	塩見佳代
ママドルをシャブ漬けにする舞台裏	同
クリントン呼んで健在ぶりを見せ	小林寿寿夢
定数の過多物語るチルドレン	同
水面下どこかで動く幹事長	川村雄一
しばらくは自公のボロが出る政治	同
聖域でオタマジャクシが孵らない	佐藤ヒサ
ファーストレディ外電はやす多面体	同
知らぬ間にお腹へ消えた給付金	日口楽人